

先週の礼拝メッセージ(2022年12月11日) ベン牧師

「批判を恐れず」 マタイによる福音書 1:18-25

今日はヨセフに焦点を当ててみことばから見ていきましょう。今日の聖書箇所を読んで、ヨセフの置かれた状況と彼の決断に驚きます。もし、身に覚えがないのに、婚約した女性が妊娠したことが判明したら、それは女性に裏切られたと思うのが当然でしょう。マリアのことを告発しても誰もヨセフを責めたりしません。それどころか、当時は姦淫の罪は石打の刑、つまり死刑と決まっていた。ヨセフはマリアをそのような目に合わせたくなかったので、「ひそかに」縁を切ろうとしたのです。当時のナザレは、人口600人ほどの小さな村でした。ヨセフとマリアの婚約も村中の人が知っていたことでしょう。それなのに離縁し、そのマリアが妊娠していることを村の人が知るのも時間の問題です。当時は婚約した段階で夫婦とみなされていましたから、婚約したのに、そしてマリアは妊娠しているのに離縁したとなると、当然批判されるのはヨセフです。ヨセフは事実を言うこともできました。しかし、自分に身に覚えがないのにマリアが妊娠したという事実を伏せて、ひそかに離縁しようとしたのです。甘んじて全ての批判を受ける方を選んだのです。

そう決心したときに、天使が現れました。マリアの受胎告知の時は、彼女の目の前に天使が現れたと記されていますが、ヨセフの時は、天使は夢に現れたのです。変な夢を見たなあと片付ければそれで終わりです。それなのに、人生の一大事を決めるときに夢を見たから従うなんて、、、。しかしヨセフは、その夢を神様からのメッセージと受け取り、マリアと結婚し、男の子が生まれるまで彼女と関係することはなかったというのです。

実はこの後も、ヘロデ王が救い主の誕生を知り、2歳以下の幼子を皆殺しにする命令を下した時も、ヨセフはまたもや夢でエジプトに下るよう促されすぐに従い、イエス様は命拾いしたのです。なぜヨセフを神様は選ばれたのか、、、。神の選びは人間の理解を超えていますから推測に過ぎませんが、ヨセフのこういう素直に従う信仰にヒントがあるような気がします。

イエス様が赤子としてこの世にお生まれくださって公生涯に立たれるまで、特に幼少期は、自分で自分の身を守ることはできません。そんな時期にヨセフの存在と彼の神への従いが、イエス様には必要だったのです。イ

エス様が地上でのミニストリーを始める前の、大切な期間を預かったのがヨセフです。

また、もう一つ、神の選びに大切なものをヨセフは持っていました。それは人の批判を恐れず、神を畏れる人だったということです。結果的には天使の言葉によってマリアと結婚しましたが、もしひそかにマリアを離縁していたら、人々の批判はヨセフに集中し、彼は苦しい立場に立たされたことでしょう。それでもそう決心したのは、人がなんと言おうと、神様はすべてをご存知だと彼が信じたからです。人を恐れず神を畏れるとはこういうことです。しかもヨセフはこの時点で、まだイエス様の十字架を知りません。十字架どころか、彼が最後に聖書に登場するのは、イエス様が12歳の時です。多くの学者たちは、ヨセフはそれから間もなく死んだのではないかと言っています。とするなら、文字通りイエス様が人間的に無防備な時期に、イエス様を守り育てる使命を与えられた人なのです。もちろん彼自身も、神を信じメシアの到来を待ち望み、イエス様こそメシアであると信じていたことは間違いありません。しかし今日の箇所はイエス様の誕生前のことであり、十字架のあがないなど彼は知る由もありません。しかし彼は神様に信頼しました。神様を畏れました。だからこそ夢での天使の言葉を信じ、マリアと結婚したのです。であるなら、私たちはどうでしょう。すでにイエス様の十字架の贖いを知り、みことばによってイエス様がいつも共にいてくださることを知っています。

23節にイエス様のことを「その名はインマヌエルと呼ばれる。」「神は我々と共におられる」という意味であると天使はヨセフに語りますが、ヨセフはまさにこのみことばを生きた人でした。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20)

イエス様は私たちに与えてくださった約束です。イエス様は「いつも」私たちと共にいてくださるのです。いつも、です。あなたが恵まれている時も頑張っている時も、落ち込んでいる時も、少し怠けてしまった時も、「いつも」はいつもなのです。なんと励まし慰めでしょうか。人の評価なんて関係ありません。主はあなたを愛し、導き、支えてくださっています。主のみを見上げて、従っていきましょう。

